

『民憲』發刊に就いて

本年四月六日、日本最初の無産政黨として立憲式を擧げた我民憲黨は其後一般大衆の熱烈なる支持を受けて、創立日淺きにも拘らず、着々として其運動の効果を擧げつゝ、あゝ。

即ち曩日の市議戦に於ける末だ生誕一月にも満たざる乳兒の我黨が、鞏固なる地盤を膨大なる黨員を擁し、且長き歴史の上に立つ既成政黨の政争間に介在して、よく敵を壓服し燦たる捷利の榮冠を戴きし如きはよくその一例を証するものである。

謂ふ迄もなく民憲黨は無産階級の階級的使命の上に立脚して、在來の腐敗墮落せる政黨政治を改革し、社會の進化に伴ふ合理的政治組織を建設せむが爲に戦ふ遼大なる理想を生命とするものである。併し乍ら之を以て民憲黨は現實を忘却して徒らに理想を遂ふ所謂夢想者の輩と解するものあらば、それは大なる誤謬と言はなければならぬ。何となれば我等は大衆の日常當面する政治經濟の現實問題を解決する事を以て、政綱政策の全部としてゐるからである、此處に我黨が未だ哺乳兒にして尙且つ民衆の絶對的信望を擔ふ所以が存するものである。

今我等は黨の機關紙として雑誌『民憲』を發刊する。我等の遼大なる理想と、健剛なる戦闘精神と周密妥當なる現實政策とはこの『民憲』に依つて天下の全階級の識者に訴へられ、又全階級の眠れる人々を揺り醒すであらう實に『民憲』は唯に黨の機關紙たるのみならず、時代の一大警鐘として、且つは新しき政治の歸嚮を指示す可き一大羅針盤としての使命と任務を帯びて呱呱の聲をあげたのである。

一般大衆諸君！

更に新時代の思潮に目醒めたる識者諸君！

乞ふに我が『民憲』の生誕を祝して、その眞摯熱烈なる御援助を傾けられむ事を。

大正十四年七月

九州民憲黨本部

八幡市中央區

重なる寄稿者氏名
創刊號七月發行

| | | | | |
|--------|--------|----|---------|---------|
| 早大教授 | 安部 磯 | 雄氏 | 同志社大學教授 | 河野 密氏 |
| 九大教授 | 石濱 知 | 行氏 | 法學士 | 麻生 久氏 |
| 法學士 | 山名 義 | 鶴氏 | 早大教授 | 大山 郁夫氏 |
| 法學士 | 長谷川 如是 | 閑氏 | 法學博士 | 清瀬 一郎氏 |
| 法學士 | 三輪 壽 | 莊氏 | 法學士 | 赤松 克磨氏 |
| 西南學院教授 | 古市 春 | 彦氏 | 文士 | 前田河廣一郎氏 |
| 文士 | 秋田 兩 | 雀氏 | 全 | 新居 格氏 |
| 評論家 | 生田 長 | 江氏 | 全 | 藤井 眞澄氏 |
| 全 | 高橋 龜 | 吉氏 | 全 | 森戸 辰雄氏 |

完全なる獲得を期す。

一、我等は議會行動に依つて土地並に生産、分配、諸機關の改善を期す。

一、我等は國際聯盟を改造し、世界平和を維持し以て全人類の共存共榮を期す。

一、我等は...